

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	失語症 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	一年次		学期及び曜時限	後期 木曜2限 他	教室名	406教室
担 当 教 員	野津 裕子	実務経験と その関連資格	野津:病院勤務時、回復期および生活期の失語・高次脳機能障害の患者様のリハビリテーション業務の実務経験がある。			
《授業科目における学習内容》						
失語症の基礎的概念を学ぶ。失語症の症状、古典分類について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(90点)、小テスト(10点)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
【教科書①】「標準言語聴覚障害学 失語症学」医学書院 【教科書②】「病気がみえる⑦ 脳・神経」MEDIC MEDIA 【教科書③】「なるほど！失語症の評価と治療」金原出版						
《授業外における学習方法》						
各回の講義後に復習を行うことで疑問点を明らかにする。その疑問点については調べ学習や講師への質問等により疑問のまま残さない努力をしてください。また、小テストを活用して基本的知識の修得に努めること。						
《履修に当たっての留意点》						
脳の機能局在を理解したうえで失語症状をとらえることができるようになって欲しい						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	大脳皮質の各葉とその働き、脳回を述べることができる		教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。	
	各コマにおける授業予定	大脳の働き(機能局在)・脳回の名義・中枢神経と末梢神経				
第2回	授業を通じての到達目標	右脳と左脳の大まかな働きの違いについて述べるができる		教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。	
	各コマにおける授業予定	言語の神経学的基盤・利き手と脳の側性化・出力系と入力系				
第3回	授業を通じての到達目標	失語症の言語症状(発話面)について述べるができる		教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。	
	各コマにおける授業予定	喚語障害・ジャルゴン・構文の産生障害・再帰性発話・構音とプロソディの障害・発話の流暢性				
第4回	授業を通じての到達目標	失語症の言語症状(理解面)について述べるができる		教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。	
	各コマにおける授業予定	語音認知の障害・語の意味理解障害・構文の理解障害・統語理解障害				
第5回	授業を通じての到達目標	失語症の言語症状(読む・書く・計算)について述べるができる		教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。	
	各コマにおける授業予定	失語症の言語症状(読む・書く・計算)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	失語症の言語症状について述べるができる	教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。
		各コマにおける授業予定	失語症の言語症状		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	失語症の古典分類について理解できる	教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。
		各コマにおける授業予定	失語症の古典分類		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	ブローカ失語の概要について述べるができる	教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。
		各コマにおける授業予定	ブローカ失語		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ウェルニッケ失語の概要について述べるができる	教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。
		各コマにおける授業予定	ウェルニッケ失語		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	伝導失語の概要について述べるができる	教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。
		各コマにおける授業予定	伝導失語		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	超皮質性失語の概要について述べるができる	教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。
		各コマにおける授業予定	超皮質性失語		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまでに学んだ失語症の分類における症状を説明できる	教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。
		各コマにおける授業予定	失語症の分類における症状		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	健忘失語、全失語の概要について述べるができる	教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。
		各コマにおける授業予定	健忘失語、全失語		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	交叉性失語の概要について述べるができる	教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。
		各コマにおける授業予定	交叉性失語		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	第1回～14回までの講義の内容について再度理解し、述べる ことができる。	教科書① 教科書② 教科書③	テキストでの自主学習 小テスト実施し理解度を 確認する。
		各コマにおける授業予定	復習		